

## 令和3年度 古賀市地域包括支援センター事業計画書 (抜粋)

包括名	古賀市第1地域包括支援センター
担当圏域	古賀中学校区

### 1. 地域包括支援センターの方針(圏域や特色や課題分析を踏まえて)

古賀中学校区の地域での高齢化率は65歳以上27.3%、75歳以上が13.6%と高値を占めている。中でも高齢者夫婦世帯の増加・独居世帯の増加が著しく、高齢化が進むことにより認知症の増加を伴ってくる。

また、昨年よりの新型コロナウイルス感染症による影響で、閉じこもりの生活に拍車がかかり、認知症症状の悪化の傾向がみられる。地域の現状を理解し、支援活動等をすすめることで高齢者の要支援・要介護状態を予防することが重要と考える。地域でお互いに支えあいひとり一人が望む形の生活を送ることが出来ることをめざす。

まずは、高齢者が支援や介護が必要な状態になっても可能な限り住み慣れた場所で支えあい、安心して生活できるよう支援し、地域の皆様に親しみやすく開かれた包括支援センターをめざす。

### 2. 地域包括支援センター独自の重点取り組み事項

- (1) 第1地域包括支援センター開設となり、病院内での包括運用となる。  
地域住民や居宅介護支援事業所、介護保険事業所への第1地域包括支援センターの周知を図り、相談受付から支援までの一連の流れが円滑に行えるように取り組む。
- (2) 認知症初期集中サポート医が在籍する法人に包括が設置されている利点を生かし、本人や家族の支援を包括的、集中的に行い、自立生活に向けたサポートを行う。  
当病院内では、年間2,000件以上の相談を受けている。中でも約7割は認知症の相談が占めており、在宅からの相談は前々年度より100件以上増加している。地域のニーズを把握し地域住民の要望を真摯に受けていく。
- (3) 各施設、病院と連携をとることにより横の連絡体制を充実させ、相談・依頼の幅を広げる
- (4) 職員研修として地域包括支援センター業務、地域包括ケアや各職種に関する研修に積極的に参加し、自己研鑽を行う。また、研修報告及び研修を定期的に行い、新しい情報共有に努める。

包括名	古賀市第2地域包括支援センター
担当圏域	古賀北中学校区

## 1. 地域包括支援センターの方針(圏域や特色や課題分析を踏まえて)

- ① 担当圏域は、65歳以上の高齢者が総人口のおよそ25%を占めている。高齢化が急速に進んだ校区を含み、一人暮らし、高齢者世帯も増加している。それに伴って、認定者数も増えており、当センターとしても、地域住民や関係機関と連携しながら支援に取り組んでいく必要がある。
- ② 地域包括ケアシステムの中核機関としての機能を果たすため、法人がこれまで長く推進してきた福祉会活動や、今年度より委託を受けて開始するコミュニティソーシャルワーカー(CSW)事業、生活支援コーディネーター(SC)事業、社会福祉センター事業等と連携を図りながら、高齢者の在宅生活を支える仕組みの構築とネットワークづくりをめざす。
- ③ 初年度にあたり、まずは地域住民や福祉・医療関係者等にセンターの存在、事業内容を周知し、信頼関係づくりに努める。また、事業運営においては本計画が達成できるよう、職員同士でそれぞれの役割を理解し、チームとしての実践力の向上に取り組む。

## 2. 地域包括支援センター独自の重点取り組み事項

- しゃんしゃん利用者に対する地域包括支援センターの役割についての説明会(5~6月~土各1回)
- 千鳥苑にて地域住民向け相談会(介護なんでも相談会)開催予定
- 介護サービス事業所ガイドブックの作成
- 施設ハンドブックの作成
- 職員研修:センター業務、地域包括ケアや各職種に関する外部研修(オンラインも含む)に積極的に参加し、自己研鑽を行う。

包括名	古賀市第3地域包括支援センター
担当圏域	古賀東中学校校区

## 1. 地域包括支援センターの方針(圏域や特色や課題分析を踏まえて)

圏域の特色や課題（古賀市第8期介護保険事業計画参照）

### 青柳小学校区

- 物忘れが多いと感じるものの割合が8小学校区の中でもっとも高い。
- 自宅で軽い体操や散歩等を週1回行っている、近所の人とほとんど付き合いがないと回答したものの割合が8小学校区の中でもっとも低い。
- 地域の支え合い、助け合いはあると感じている人の割合が8小学校区でもっとも低い。
- 高齢者人口 1,740人(2017年) → 1,920人(2020年)
- 高齢化率 28.6%(2017年) → 32.0%(2020年)
- 認定率 11.8%(2017年) → 12.3%(2020年)

### 小野小学校区

- 運動機能リスクがある人に割合が、8小学校区の中でもっとも高い。
- 週1回外出している人の割合、自宅で軽い体操や散歩等を週1回行っている人の割合が他の小学校区と比較して低い。
- 地域の支え合い、助け合いはあると感じている人の割合が8小学校区でもっとも高い。
- 高齢者人口 1,538人(2017年) → 1,704人(2020年)
- 高齢化率 23.8%(2017年) → 26.2%(2020年)
- 認定率 11.6%(2017年) → 10.3%(2020年)

方針：運動や認知機能に課題がある高齢者が多く、地域の支え合いが十分でないことから、支援が必要な高齢者が埋もれている可能性が十分にある。地域を知り、課題を十分に把握する必要があるため、地域活動への参加やアウトリーチによる実態把握、住民からの相談対応、区長、民生委員等との連携により、地域診断を行い今後の地域づくりをすすめていく。

## 2. 地域包括支援センター独自の重点取組み事項

- ・85歳以上の高齢者世帯のアウトリーチによる実態把握  
基本チェックリストによる生活機能の把握、体力測定（握力、体重、血圧等）によりフレイルを早期に発見し適切な支援につなぐ。  
また、高齢者の相談窓口である包括支援センターの周知、必要時適切な支援、必要な機関につなげる機会とする。
- ・地域のつどいの場への参加  
（体力測定等を通して、地域の高齢者に対する相談機能の強化を図る）
- ・CSWと連携し、地域の課題の把握、解決に向けての取り組みを一緒に考えていく。